

肺炎球菌性複合予防接種

知っておくべきこと

1 予防接種が必要な理由とは?

肺炎連鎖球菌(*Streptococcus pneumoniae*)細菌に感染すると、重篤な病気および死亡の原因となることがあります。毎年5歳未満の子供の約2百人が侵入性肺炎球菌性疾患で死亡します。これは米国において細菌性髄膜炎の主な原因となっています。(髄膜炎は脳膜の感染症です。)

予防接種が利用可能となる前は、毎年下記の疾患を引き起こしていました。

- 髄膜炎、7百人以上
- 血液感染症、1万3千人
- 中耳炎、約5百万人
また肺炎球菌性感染症は下記のような他の障害を引き起こす可能性があります。



- 肺炎
- 聴覚喪失
- 脳障害

2歳未満の子供は重篤な病気にかかる危険性がさらに高いです。

肺炎球菌は密接な接触を通して人から人に広がります。

治療に使用されてきたいくつかの薬剤に対し肺炎球菌が耐性を持つようになってきたため、この疾患の治療が困難な場合があります。ですから**予防**がさらに重要となっています。

肺炎球菌性複合予防接種は、髄膜炎および血液感染症などの肺炎球菌性疾患の予防に役立ちます。また一部の中耳炎も予防します。しかし中耳炎には多くの原因があり、肺炎球菌性予防接種はその一部だけに効果があります。

2 肺炎球菌性複合予防接種とは?

肺炎球菌性複合予防接種は乳幼児に対し承認されています。幼児期に予防接種を受けた子供は、重篤な病気にかかる危険性が最大のときに、その病気から守られます。

乳幼児より年長な一部の子供や成人は、肺炎球菌多糖類ワクチンと呼ばれる異なった予防接種を受ける

こともできます。この予防接種を受ける方のために別のVaccine Information Statement (予防接種情報文)があります。

3 予防接種の対象者と接種時期とは?

・2歳未満の子供

肺炎球菌性複合予防接種の定期予定は4回で、下記の月齢において1回ずつ接種を受けます。

- ✓ 2カ月
- ✓ 4カ月
- ✓ 6カ月
- ✓ 12~15カ月

これらの月齢で接種を受けなかった子供でも予防接種を受けられます。接種回数はその子供の年齢によって異なります。詳細は医師か看護婦にお尋ねください。

・2~5歳の子供

肺炎球菌性複合予防接種は、まだ予防接種を受けておらず、重篤な肺炎球菌性疾患のリスクが高い2~5歳の子供にも推奨されます。下記の状態を持つ子供がこれに含まれます。

- 鎌状赤血球症
- 脾臓損傷または脾臓欠如
- HIV/AIDS
- 糖尿病、癌、肝臓病など、免疫系に影響するその他の疾患
- 化学療法またはステアロイドなど、免疫系に影響する薬剤摂取
- 慢性心臓病または慢性肺疾患

5歳以下の他の子供、特に重篤な肺炎球菌病の危険性が高い幼児は、予防接種を受けさせることを検討してください。下記の子供がこれに含まれます。

- 3歳未満の子供
- アラスカ原住民、アメリカ・インディアン、またはアフリカ系アメリカ人の子供
- 託児所に通う子供

接種回数はその子供の年齢によって異なります。詳細は医師か看護婦にお尋ねください。

肺炎球菌性複合予防接種は他の予防接種と同時に受けることができます。

4**肺炎球菌性複合予防接種を受けないほうが良い人、または時期を見合わせたほうが良い人とは?**

前回の肺炎球菌性複合予防接種に対し重篤な(生命に関わる)アレルギー反応があったり、ワクチンの成分に重度のアレルギー反応がある場合は、この予防接種は受けてはなりません。今までに予防接種に重度の反応があったり、その他のものにたいする重度のアレルギーがある場合は、医師および看護婦に知らせてください。

風邪など軽症の病気がある場合でも、予防接種を受けられます。しかし、接種予定時に中程度または重度の病気のある子供は、通常、回復するまで予防接種を受けないでください。

5**肺炎球菌性複合予防接種に関するリスクとは?**

調査(接種回数6万近く)によると、肺炎球菌性複合予防接種は軽症の反応だけに関連付けられました。

- ・ 接種部分の赤らみ、痛み、または腫れは4人中最高約1人
- ・ 華氏100.4度(摂氏38度)の発熱は3人中最高約1人で、高熱(華氏102.2度、摂氏39度を超える)は50人中最高約1人
- ・ 部の子供に不機嫌、眠気、食欲不振

今までのところ、この予防接種と重篤な反応は関連付けられていません。しかし、どんな薬剤でも同様に、予防接種は、重度のアレルギー反応などの重篤な問題の原因となることがあります。この予防接種が原因で、重篤な障害や死亡に至るリスクは非常に少ないです。

6**中程度から重度の反応があった場合はどうしますか?**

気を付けることとは?

重篤なアレルギー反応、高熱、または普通でない様子など、平常でない状態に気を付けてください。

重篤なアレルギー反応はどのような予防接種においても極めて稀です。発生する場合は、接種後2、3分から2、3時間以内に起こります。これには下記の症状が含まれます。

- | | |
|--------|-------------|
| - 呼吸困難 | - 脱力感 |
| - じんま疹 | - 声がかたまたは喘鳴 |
| - 動悸 | - 青ざめ |
| - 喉の腫れ | - めまい |

どの様に対応すれば良いのでしょうか?

- ・ 医師に連絡するか、症状のある人を直ちに医師に連れて行ってください。
- ・ 症状、発症した日時、予防接種を受けた日を医師に知らせてください。
- ・ Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS: 予防接種有害事象報告システム)用紙を提出するよう医師または看護婦に要請するか、自分でVAERS(米国内ファイルダイヤル1-800-822-7967)に電話するか、またはウェブサイト<http://www.vaers.org>をご覧ください。

7**全米予防接種傷害補償プログラム
(The National Vaccine Injury Compensation Program)**

自身またはお子様が予防接種により重篤な反応を生じる稀な場合に備え、傷害のあった方の医療費用支払を支援するため連邦プログラムが設定されています。

National Vaccine Injury Compensation Programの詳細は、**1-800-338-2382**までお電話いただくか、<http://www.hrsa.gov/osp/vic/> で同プログラムのウェブサイトをご覧ください。

8**もっと詳細を知りたいのですが?**

- ・ 医師か看護婦にお尋ねください。医師か看護婦から予防接種の添付説明書を受け取ったり、その他の情報源を入手できます。
- ・ 地元または州の保健局予防接種プログラムにお電話ください。
- ・ Centers for Disease Control and Prevention (CDC: 疾患管理予防センター)にご連絡ください。
 - Call 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)
 - <http://www.cdc.gov/nip> で National Immunization Program (国立予防接種プログラム)のウェブサイトをご覧ください。



U.S. DEPARTMENT OF HEALTH & HUMAN SERVICES
Centers for Disease Control and Prevention
National Immunization Program

Vaccine Information Statement

Pneumococcal Conjugate Vaccine IMM 577ML - Japanese (9/30/02)
Translated by Transcend Translations, Davis, CA 42 U.S.C. § 300aa-26
<http://www.transcend.net>